

1. 略歴

1981年3月	東京大学文学部第1類（文化学類・倫理学専修）卒業（文学士）
1983年3月	東京大学大学院人文科学研究科倫理学専攻修士課程終了（文学修士）
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科倫理学専攻博士課程進学
1986年3月	東京大学大学院人文科学研究科倫理学専攻博士課程単位取得退学
1986年4月	跡見学園女子大学文学部非常勤講師 ～1989年3月
1987年4月	日本学術振興会特別研究員 ～1989年3月
1989年4月	専修大学文学部非常勤講師 ～1990年3月
1990年4月	北海道大学文学部哲学科倫理学講座助教授
1995年4月	北海道大学文学部人文科学科倫理学講座助教授（学部改組による）
1996年10月	東北大学文学部哲学科倫理学講座助教授
1997年4月	東北大学文学部人文社会学科哲学講座助教授（学部改組による）
2000年4月	東北大学大学院文学研究科哲学講座助教授（大学院重点化による）
2000年10月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年10月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

倫理学原理論、近現代西欧倫理思想

b 研究課題

倫理学的諸概念の哲学的考察

c 主要業績

(1) 著書

- 編著、熊野純彦、『西洋哲学史 IV』、講談社、2012
- 共著、熊野純彦、『西洋哲学史 III』、講談社、2012
- 単著、熊野純彦、『マルクス 資本論の思考』、せりか書房、2013

(2) 論文

- 熊野純彦、「マルクスをどう読むか」、『立命館哲学』、23、1-38頁、2012
- 熊野純彦、「未来への懐旧、異郷への郷愁」、『フランス哲学・思想研究』、17、21-30頁、2012
- 熊野純彦、「模倣と反復」、『季刊 日本思想史』、80、128-152頁、2012
- 熊野純彦、「研究ノート 哲学的テキストの翻訳によせて」、『われにくさ』、5-2、72-82頁、2014

(3) 解説

- 熊野純彦、「人文学の現状と未来・私見」、『人文学と制度』、171-180頁、2013
- 熊野純彦、「解説にかえて——中野敏男という意志」、『マックス・ウェーバーと現代・増補版』、341-357頁、2013
- 熊野純彦、「デュナミスという存在の次元」、『アリストテレス全集』、2、1-4頁、2013
- 熊野純彦、「いく度かのすれ違いの果てに——ハイデガーとの出会いについて」、『図書』、2014、10-13頁、2014
- 熊野純彦、「精神のエネルギー——思考のつむぐ夢」、『ベルクソン全集』付録、月報5、6-9頁、2014

(4) 啓蒙

- 熊野純彦、「時間と永遠——時のあいだを生きること、時の流れを超えて考えること」、『学園通信』、101、3-15頁、2012
- 熊野純彦、「大人とは、遙かにおい思いをいだく存在である」、『子どもの難問』、17-19頁、2013
- 熊野純彦、「じぶんらしさはときに無責任で、不自由なもの」、『子どもの難問』、116-118頁、2013

(5) 翻訳

- 個人訳、I. Kant, "Kritik der reinen Vernunft"、『純粋理性批判』、作品社、2012
- 個人訳、I. Kant, "Kritik der praktischen Vernunft"、『実践理性批判』、作品社、2013
- 個人訳、M. ハイデガー, "Sein und Zeit"、『存在と時間』、岩波書店、2013